

川西市をたてなおそう！市民集会

市民のみなさん
いまこそ
つどいあいましょう。

いま私たち市民が
声を出さなければ、
ますます川西市は、
大変なことになっていきます。

8月23日(日)
13:00～14:30
(受付12:30～)

東谷公民館 3階 集会室

能勢電山下
駅徒歩 5 分

能勢電絹延橋
駅徒歩 5 分

8月30日(日)
15:30～17:00
(受付15:00～)

川西公民館(キセラ川西)
3階 集会室

川西市政の8年——いま正直な市民の実感

この8年間、川西市は廃止に次ぐ廃止の8年でした。
市民に必要な交通も医療も福祉も、子どもらの保育も教育も、
子どもにもおとなにも大切な社会教育・生涯学習の場も機会も、
「市の方針ですから」と「ビルドなきスクラップ」強行の8年。
政策決定過程が不明で「市の方針なので」とただ繰り返す職員。
市民の暮らしを支える公共の基盤がどんどん削られていきます。
「あとは自己責任で」と格差拡大・弱者切り捨てがすすむ恐怖。
憲法が定める「個人の尊厳」も「公共の福祉」も危うく、
なのに市の広報は行政に都合よく伝え、都合悪いは伝えず
市民に必要な情報よりも市長のコメントや写真が頻出。
まるで「市長後援会報」。「対話の市政」を掲げて、
しかし聴く耳は持たない「裸の王様」に、市役所は、
職員らの疲弊のすすむ様子が市民にも垣間見えて——

たとえば既に…
住民生活に不可欠な交
通手段を奪って省みず、
就学前の子どもや高齢
者や障がい者に必要な
公共施設の廃止や統合、
北部医療施設は課題を
残したまま、市民のス
ポーツ・文化の振興に
も関心なく、教育委員
会の社会教育行政部門
も廃止、等々…

たとえば今も…
今年3月、中学校の全部活動
が市長方針で廃止。以前は
85%の中学生が部活動に。
今年6月「地域クラブ」に入
れた中学生は45%のみ。
40%の中学生が、放課後の
居場所と活動を失いました。
(裏面に参考資料)

この市民集会は、私たちが呼びかけています。
市民ファーストかわにし + 市民有志

(アイウエオ順)

市議 斯波 康晴 (しば やすはる)
shiba-asita@alpha.ocn.ne.jp
070-5343-2539
市議 加茂 文子 (かも あやこ)
2022.kamo.aya@gmail.com
090-5168-7130

上杉孝實(京都大学名誉教授) 尾市雅子(元川西市教育委員/声楽家)
大田雅弘(元川西ライオンズクラブ会長) 澤田裕子(アドラー心理学カウ
ンセラー) 辰巳きみよ(児童発達支援員) 津田加代子(元川西市議会議員)
中島章雄(川西市スポーツ協会理事) 福田弘彦(東谷コミュニティ会長)
古谷茂政(元川西ライオンズクラブ会長) 森山康浩(元池田市立小学校長)
森永裕文(元川西市立小学校教員) 森本睦美(障がい者福祉団体役員)
矢野端(元川西市立小学校長) 吉永省三(千里金蘭大学名誉教授)

※「市民ファーストかわにし」は無党派・無所属の市民派市議2人だけの川西市議会会派です。
※タウンミーティングで市政報告を聴き「何とかしなければ」と市民が集いあいました。
※集会では現状をめぐって交流し合い「これから市民はどうするか」を考え合います。

参考資料 市民の請願(憲法 16 条)も尊重されず――

私たちの
川西市の今

●大和循環バス平日 38 便の継続を求める請願

請願者:大和交通検討委員会 2024(令和 6)年 6 月 3 日提出

請願事項 令和 6 年からも平日 38 便で運行できるよう支援の継続を請願します。

請願趣旨 坂道が多く、高齢化率も高く、団塊の世代の免許返納が加速するいま、大和循環バスの減便は高齢者のみならず、子どもや車を持たない若い世代など、交通弱者にとって生活の基盤を揺るがす大きな問題です――と訴えました。

⇒議会は採択。しかし市長は、これを無視。「バスに代わる新たな交通手段を地域住民で考え運行すること」との市の方針を変えることなく、減便を強行して 30 便に。

●高齢者の居場所づくりを確保することについての請願

請願者:川西市老人クラブ連合会 2024(令和 6)年 8 月 28 日提出

請願事項 高齢者の居場所づくりに対して、格段の配慮を請願します。

請願主旨 居場所は高齢者の幸福度を上げ、家庭への閉じこもりは幸福度を下げます。居場所は地域に住む人々のつながりを深め、地域の助け合いの拠点に発展します。地域の課題解決のためにきめ細やかな支援の地域拠点として居場所は大切です。高齢者の活動拠点を確保してください。高齢者の生き方への支援をお願いします――と訴えました。

⇒議会は採択。しかし市長は、老人福祉センターや老人憩いの家の廃止条例案を提出。

●子どものための「部活動改革」と「地域クラブ活動」の実現を求める請願

請願者:子どものための「部活動改革」と「地域クラブ活動」の実現を請願する市民の会
2026(令和 8)年 2 月 17 日提出

請願事項

1. 国ガイドラインの「改革の理念」に基づいて、子どもの余暇・レクリエーション・スポーツ・文化芸術への権利(子どもの権利条約第 31 条)を子どもたちに保障する、「部活動改革」と「地域クラブ活動」を推進してください。
2. こども基本法の理念(子どもの最善の利益を第一に考える原則)にのっとり、川西市でも国が示す「7つの要件」を充たす認定制度を整え、それに基づいて子どもが実際に地域で参加できる「地域クラブ」をつくって下さい。
3. 子どもたちが不安にならないよう、川西市は上の 1 と 2 の実現に必要な制度設計と実施計画を速やかに公表して、子どもや保護者、市民への説明を十分に尽くし、「子どもが幸せになるまちづくり」を進めて下さい。

中学生も
請願者に

しかし
不採択

この請願
どこがダメなのか
おしえてほしい

⇒議会では市長与党議員の反対多数で否決。

- ✓前年 2025 年にも、中学校部活動を 2026 年 3 月に全面廃止する市長方針の見直しを求める請願が 2 つ。しかし、いずれも否決され、市長は同年 3 月、部活動の全面廃止を強行。
- ✓上の請願では、中学生も請願者として参加しましたが、子どもの声も受け止められず。
- ✓その反対理由が審議では不明。請願者が反対議員に文書で問い合わせるも応答なし。